

令和5年第7回  
久御山町教育委員会定例会  
議事録

## 令和5年 第7回久御山町教育委員会定例会 議事録

1. 招集年月日 令和5年8月31日
2. 招集の場所 久御山町役場4階入札室
3. 開 会 令和5年8月31日 午前9時開会 宣告
4. 出席委員 内 田 智 子  
豊 田 美 幸  
阿 部 拓 児

### 5. 職務のため出席した者の職氏名

教 育 次 長	中 務 一 弘
学校教育課長	前 山 雅 宏
生涯学習応援課長	星 野 佳 史
学校教育課長補佐	梶 原 哲 郎
学校教育課長補佐	小 川 伸 二

### 6. 付議案件

- 議案第20号 令和6年度以降使用小学校教科書図書採択について  
議案第21号 令和5年度久御山町一般会計補正予算（第3号）  
議案第22号 久御山町子どもの読書活動推進計画策定委員会設置要綱一部改正  
について

### 7. 会議の経過

午前9時 開会

○内田教育長 ただいまから令和5年第7回久御山町教育委員会定例会を開催いたします。なお、本日は、寺井委員と田口委員が欠席と伺っております。また、前回ですね、第6回の議事録でございますが、本日までに作成ができませんでしたので次回の定例会に本日の議事録と併せて承認いただきたいと思いますので、御了承をよろしく申し上げます。本日5点、報告させていただきます。まず1点目でございますが、7月27日に民生教育常任委員会において、長寿命化計画策定を受けて、佐山小学校の現地視察が行われました。2点目は8月3日から1泊で、青少年育成協議会による若狭湾宿泊体験事業がありました。4年ぶりの開催となりましたが大きな怪我なく、全員、無事に帰って

まいりました。3点目ですが、8月22日に久御山学園夏季研修会を悉皆で全員対面で行いました。久御山学園についての取組み、またヤングケアラー、それからティーチャーズトレーニングについて園小中学校の教職員が一堂に会しまして、学びを深めることができました。4点目ですが、8月28日小中学校の2学期が始まりました。この暑さの中で、教育活動について、安全確保について、校園長会議において指示をいたしました。5点目ですけれども、町民運動会がまた半日という開催で9月24日に行われますので御協力よろしく申し上げます。以上報告とさせていただきます。それでは議事に移ります。議案第20号「令和6年度以降使用小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

この教科書採択につきましては、お手元に配布させていただきました国語から道徳までを順次、審議させていただきたいと思っております。今回、採択する小学校用図書は、令和6年度から使用するものでございます。その目的と法的根拠を申し上げます。義務教育諸学校の教科書図書の無償措置に関する法律第12条により、山城地区におきまして、山城教科用図書採択地区協議会が設置されております。また、同法の第13条5号で採択地区が2以上の市町村の地区を合わせた地域があるときは、当該採択地区内の市町村教育委員会は採択地区協議会における協議結果に基づき、同一の教科用図書を採択しなければならないと規定されております。さらに地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中で、教育委員会の職務権限として、第21条第6項に教科書その他の教材の取扱いに関することが規定されていることから令和6年度以降、久御山町の小学校において使用する教科書用図書の採択につきましては、本日のこの教育委員会で決定いただくものということでございます。まず、山城教科用図書採択地区委員会の調査員について申し上げます。13教科の調査員につきましては、山城管内の小学校の教員の中から、その教科に長けている複数の教員を教科調査員に委嘱し、教科毎に複数回、協議を重ね、報告書を作成していただいたところでございます。その結果を代表調査員から説明を受け、山城教科用図書採択地区協議会、定数20名で協議を行い、共同採択したものでございます。本日の進め方ですが、最初に山城教科用図書調査委員会の報告書を基に説明をさせていただいたのち、採択地区協議会の協議結果を報告させていただきます。そのあとで教育委員の皆様方の御意見を伺いたいと思っております。それでは令和6年度以降小学校における教科用図書につきまして協議をいたしますが、小学校教科用図書報告書は発行者の優劣をつけることが目的ではございません。特徴が書かれておりますので御理解いただきたいと思っております。お手元に配布しております資料ですね、一番うしろ、意見集約表というものも付けさせていただいておりますので、そこを加味していただきたいと思います。それでは、協議させていただきます。小川課長補佐から説明させていただきます。

○小川学校教育課長補佐 はい。よろしく申し上げます。教科書採択に向けて、次の3

つの視点を踏まえ、御協議いただきますようお願いいたします。まず一つ目は、学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。二つ目は、内容や構成が学習を進める上で適切であること。そして三つ目は使用上の便宜が工夫されていること。これらの視点を踏まえ、御協議をお願いいたします。今回は小学校の国語・書写・社会・地図・算数・理科・生活・音楽・図工・家庭・保健・英語・道徳の13の教科等になります。よろしく申し上げます。では国語からです。国語は東京書籍・教育出版・光村図書の3社です。東京書籍は、身につけるべき資質能力を言葉の力として、巻頭巻末にまとめて示しています。各学年の巻頭には、言葉の力を集めようとして、当該学年での学習内容が学ぶ順番に記載され、巻末には、言葉のつながりとして、話す、聞く、読む、物語、伝記、説明文の領域ごとに分類し、系統立てて明記されています。各単元が「見通す、取り組む、振り返る」の流れで、課題解決型の学習過程として構成されています。教材文の前には「見通す」として、学習の流れを示したページを配置していて、児童が学習の見通しを持てるようになっていきます。次に教育出版は、巻頭に、「広がる言葉」というページを設け、当該学年の学習内容が領域ごとに、言葉、漢字、言葉の文化、読書にまとめられています。どのような学習でどのような力を習得するかを整理して示し、さらに、学んだことを実際の学校生活のどんな場面で生かせるかを示すことにより、主体的な学習を促しています。そこには各単元に関わるSDGsの項目についても示されています。また、1年生の上巻、最初の6ページには、最初と最後のページのみ文字が入った登校の様子が描かれたものになっていて、教師との対話によって学習が進められるようになっていきます。光村図書は、巻頭にある「国語の学びを見渡そう」というところでは、領域ごとの学習の進め方も示されています。また、当該学年で学ぶこととして、前学年と比較したり、系統性を確認したりできるように学習内容を整理してあります。単元構成について、「見通しを持とう」から「振り返ろう」までの学習の流れの初めに、児童の主体性を促すための「問いを持とう」という問いかけがあり、振り返りについても三つの視点を示されています。学習の流れが整理されていて理解しやすい点、活動ごとの視点が細かく示されている点が大きな特徴です。また、巻頭終末のページに「いかそう」が設定され、各教科や日常生活で活用できる視点が示されています。山城地区で採択された結果なんですけれども光村図書が選出されています。理由は、光村図書は目次が見やすく、1年間の学習の流れや領域がわかりやすく記載されていること。巻頭には前学年との関係性が整理されていることが大きな特長としてあること。単元の進め方のステップがきめ細やかで段階的に示されていること。また、具体的な中身として、第1学年にある教材では、1文が短く読みやすいこと。以前からあるような教材と新しい教材がうまく設置されてるということも上がっていました。国語については以上です。

○内田教育長 説明が終わりました。ただいま説明がありました3つの採択基準を踏まえまして、委員の皆様方から各発行者の良いと思う点などを抜粋して御意見を頂きたい

と存じますが、まずは本日御欠席をされておられます田口委員の御意見について前山課長、お願いします。

○前山学校教育課長 はい、それでは失礼します。調査委員会の報告会の方に田口委員の方、出席していただきまして、その御意見ということで伺っております。国語については、光村図書についてです。児童が主体的に学び、言葉の力を伸ばすことができる言語活動が、手引きなどをもとに具体的に示されている。各単元が教材文から「見通しを持つ」「振り返ろう」という構成で記述されている。この2点について御意見いただいております。以上です。

○内田教育長 はい、ありがとうございました。それでは、どなたからでも結構ですので御意見の方、よろしく願いいたします。

○豊田委員 まず、東京書籍なんですけれども、東京書籍の方は、言葉の相談室のメソッドを取り入れたりして、取り残さないというところにすごく配慮があって、きめ細やかな今に先駆けた取組かなと思えました。エラーモデルとか、文のねじれとか子どもが間違いやすそうなところをあえて指摘しておくことで大人になっても、文のねじれはよくあることなので、早くからそういう間違いやすいところを指摘するというのは、さすがだなと思った反面ですね、やっぱり小学生なので、のびのびとした発表の仕方とか発想をみんなに発表する前に間違ったらどうしようとかそういうところでちょっと臆病になってしまわないか、のびのびとした発想、発表の場というのを妨げる恐れはないのかというのはちょっと心配になったんですけど、それくらいきめ細やかにされてるなというところはさすがだなと思えました。国語の読解力ということに関しては、やっぱり関係を整理したりとか関係を明らかにして整理するというところがやっぱり重要になるので、早い段階からそこを取組もうとしておられるんだなというところは感心したところです。教育出版は、反面、すごく紙面が見やすく、東京書籍の方はすごく情報がすごくいっぱい入ってるんで、それはそれでいいんですけど、見やすいというところでは、教育出版、すごく導入にも工夫があって、子どもが想像したり、見たり、聞いたりって五感を使って国語に入っていく導入の仕方があって、すごく良いなと思えました。シンプルで。先生の授業の進め方としてはデジタルの方で、朱書きのところもあるし、ということでそれもまた違う意味から入ればと。光村図書はやっぱりバランスがすごくいい。この先にあげた2社の間をちょうどうまくバランス良くとっておられて。中に図を使って考えようということで、考えを整理する図がびらびらっと出せるような感じでどの学年にもついてるんですね、それは学年をおってきめ細やかに、細かい指導になっていくというところですのですごくよく考えられてるので、私も光村図書が一番バランスが良くていいのではないかなと思っていたので、今回のことでは、異議ありません。

○内田教育長 阿部委員。

○阿部委員 そうですね、今、多分、光村ですよ。子どもたちも、うちですけど

も、特に不満とかそういうことはないですし、光村見ていると、古くからっていうか、変わらない教材っていう、僕が小学校の時からこれ載ってたっていう、僕も多分小学校の時は光村だったと思います。国語の教科書の教材文ってある種の共通体験なので、そういうものを大切にしているのはね、良いかなと思います。兄弟で同じものを読んでいる、しかもそれは親も読んでてっていうので古くからの教材が大切にされているっていうのは、光村のいいところだと思います。

○内田教育長 なるほど。ありがとうございます。よろしゅうございますか。

○委員全員 はい。

○内田教育長 それでは、協議を終わらせていただき、久御山町として来年度から使用する教科書を決定していきたいと存じます。国語につきましては、御意見から光村図書を決定させていただくことに賛成の委員の皆様、挙手をお願いいたします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員でございます。よって国語につきましては、光村に決定させていただきます。次に書写についての協議を行います。

○小川課長補佐 はい、失礼します。書写は、東京書籍・教育出版・光村図書の3社です。まず東京書籍は、目次に、小学校全体で学ぶ学習内容、書写の学びとして、姿勢・持ち方、点画の書き方、書くときの動き、字形、配列、筆記用具・用紙に整理して表しています。また、各単元の初めには、めあてや「書写のかぎ」というポイントが見やすく整理され、「見つけよう、確かめよう、生かそう」の順で構成されています。最初に課題と向き合った後、毛筆で学習内容のポイントを確かめ、硬筆でその成果を生かすという流れになっています。各学年の巻末の学びを生かそうでは、今まで習ったことの振り返りとして、自分で書く言葉と使う筆記具を選び、自分で考えて書くということ、1年間のまとめとしています。全体のレイアウトは大きくて見やすく、全体としての色合いも落ち着いています。次に教育出版は、その学年で学習することと、生活の中で生かせる例が示されており、1年間の学習の見通しが持ちやすくなっています。各単元の学習ですが、単元の学習に入る前に、硬筆や毛筆で試し書きをします。その後、めあてに沿った文字の書き方を知ってから、試し書きと教科書の文字と比べて、自分で気をつけるところを見つけて練習し、最後にまとめ書きをして、試し書きと比べてみるという学習の流れになっています。他教科との関連においては、レッツトライのページがあり、学級新聞やポスターなど、他教科や学校生活に生かすことを狙いとした教材が取り上げられています。また、SDGsの17の目標に関わる言葉を書いて、掲示板にまとめる活動や、海外の文字文化の多様性について知るための資料が掲載されています。最後に光村図書は、動画やアニメーションなどの資料を多く取り入れ、学習内容や動画の音声を通して理解しやすいようにしていたり、単元ごとの解説のところに学習のポイントが書かれていたりします。各単元の学習についてですが、整った字を書くためにどこに気をつ

ければいいかを考え、毛筆で実際に書いて確かめた後、その学習したことをほかの文字に生かして硬筆で書くという流れになっています。また、振り返りは、ねらいが記された下のほうに気をつけて書いたというチェックボックスで行います。また、他の教科との関連において、「書写で広げたい」のページがあり、国語や他教科、日常生活に関わる教材を取り上げ、生かせるようになっています。山城地区での採択の結果なんですけれども、東京書籍が選出されています。理由は、どの教科書も他教科へのつながりということに掲載されていますが、その中でも、東京書籍が最もめあてが明確であり、子どもたちもわかりやすく指導者も教えやすいこと。また、見やすさの部分では、東京書籍が最もシンプルな形で、色合いも含めて見やすいことで、子どもたちが落ち着いて取り組むことができるのではないかとということが挙がっていました。書写については以上です。

○内田教育長 それでは田口委員からの御意見よろしく申し上げます。

○前山学校教育課長 それでは書写についてですが、東京書籍につきまして、学習の基本を最小限で表している。めあてがはっきりしている。巻末に「書写のかぎ」として当該学年までの学習のポイントがまとめられている。という2点について御意見いただいております。以上です。

○内田教育長 はい、ありがとうございます。それでは、御意見のほういただきたいと思えますね。

○豊田委員 東京書籍ですけれども、やっぱり持ち方、筆にせよ、ペンにせよ最初に悪い癖がついてしまうのが、一番漢字とか国語教育の中で、姿勢も悪くなりますし、つまづきのもとかなと思うところなんですけれども、東京書籍の場合、自分が正しい持ち方をしたときのこの目に入るこの手の写真がね、実物大というか生の写真でですね、イラストじゃなくて、これ、一番子どもたちにしてみたらイメージ湧きやすいんじゃないかなっていう心遣いがありました。教育出版の方なんかだと、合言葉とか持ち方の合言葉、ぶらぶらしてとか色々それぞれに工夫はされてるんですけれども、やっぱり見やすさというところで、東京書籍が一番見やすいかなと。教育出版と比べてですけれども。教育出版はどっちかっていったら教科書というような位置付けでもって、それを見ながらどこか別のところで練習をするというような位置付けで作られているのかなという感じで、目指すところはちょっと違うんだと思うんですけれども、この東京書籍さんの方は、ワークってというような感じで書き込むスペースがすごく多いですね。教育出版さんの方はどっちかっていうとどこか別のところに書いて練習するっていうそういう感じのかなと思いました。あと光村図書さんのすごく良いなと思ったところは、部分の組立て方っていうようなところがあって、例えば、雨っていう漢字にしても、雨って書くときと、雰囲気とかの雨の漢字が上に上がる時ではちょっと止め、ハネ、払いとかバランスっていうか、字のバランスも変わりますし、そういうところを細かく取り上げて、せつ

かく習った漢字なんだけれども、部首とかそういうのの組立てによっては書き方が変わるってところまで指摘されているので、細やかな配慮なのかなってことをちょっと感心したところではあります。東京書籍さんか光村図書さんかどっちかなっていう私としては印象だったので、なるほどと思って聞かせていただきました。

○阿部委員 現場の先生が東京書籍が使いやすいと言われたら、それにのっかるしかないんでしょけど、ちょっと思ったのは、国語の教科書と揃えた方が良いとかそういう議論にはならない。

○小川学校教育課長補佐 なかったですね。

○阿部委員 全然ない。そもそも、そういう前提自体があまり意味がないんですか。なんとなく素人の考えだったら国語の教科書と国語と書写ってなにかニコイチみたいなのところがあるから、何か揃えた方が、当然、揃えるのかなと思ってたら、別にそういうことは、全然、もう議論にもなってなかったんで、それはちょっと素人の考えだったらちょっと意外だったんですけども。そこはもう全然、別に分けて考えたらいいんですか。

○小川学校教育課長補佐 これまでも別の会社っていうのは本当に多くて、今、豊田委員もおっしゃったようにやはり字を書くっていうか、その点画の形であるとか、それを今度、自分の例えば作文だったりに生かしていくとかっていう部分になってくるので、まず国語とその読み方の文章を読むとかっていうことはまた別で考えてるのかなという風には感じております。

○内田教育長 よろしいですか。それでは、協議を終わらせていただき、久御山町として来年度から使用する教科書を決定していきたいと思えます。書写につきましては、東京書籍に決定させていただくことに賛成の皆様は挙手をお願いいたします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員でございます。よって書写につきましては東京書籍に決定させていただきます。続きまして社会科です。お願いいたします。

○小川学校教育課長補佐 はい。社会科は、東京書籍・教育出版・日本文教出版の3社です。3社とも、小学校学習指導要領の社会科の目標及び内容、内容の取扱いを踏まえた事象、事例に基づいた教材、また、基礎的・基本的な事例等が多くあります。防災や安全のこと、領土、国旗、伝統文化、国際理解などについても取り上げています。二次元コードなどからアクセスできるよう、デジタル教材も充実しているということになっています。個別では東京書籍は、小單元ごとに学習問題を設けて紙面を展開していて、「課題を追求したり解決したりする活動」ができるようになっています。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習段階をたどりながら、社会科の問題解決的な学習をわかりやすく進めていくことができることやデジタルコンテンツも豊富です。学習上重要なキーワードを言葉として明示して解説していたり、学び方コーナーを設け、学習技



能を系統的に習得できるようにしていたりします。また、5、6年の教科書は上下巻に分かれています。教育出版は、児童の意欲や関心のあり方に応じて学習を広げたり深めたりできるように「もっと知りたい」のページを設けることや、キーワードの語句の解説を行い、学習内容の確実な習得に役立てるようになっていきます。また、学び方を学ぶための「学びのてびき」というコーナーを設け、必要な技能を系統的に習得できるようになっていて、「まとめる」のページでは、文章にまとめることや発表することなどの多様な例を紹介していて、対話的な学びが促されるようになっていきます。最後に日本文教出版は、学習の問題の追求、解決する手立てとなる見方・考え方やまとめ方、読み取り方などを示した、学び方・調べ方講座を設定し、観察や見学、表現活動などの質を高める手立てとしています。また、タブレットを活用したまとめ方も提示しています。学習問題を追求・解決する手立てとなる見方・考え方には、空間、時間、関係の三つの視点で示し、思考力、判断力を育成できるようになっています。京都市や姫路市、栗東市など、近畿地方の市町を多く取り上げていることも特徴として挙げられ、4年生の暮らしを支える水の単元では、使う水はどこからのページに、身近な天ヶ瀬ダムが取り上げられています。山城地方の採択の結果なんですけども日本文教出版が選択されています。理由としては、日本文教出版は学習中に出てきた課題や問題点などを考える場面が多く、考えることを大切にしていることで、話し合いの柱が明確になっていること。学習課題に対する見方・考え方の提示方法が工夫されていて、表現や観察などが重視されていること。身近な生活から学習問題を見つけ、追求したり解決し考えを深めたりできるように構成されていることや近畿地方を多く取り上げていることなどが挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 はい。それでは田口委員の御意見をお願いいたします。

○前山学校教育課長 田口委員からは日本文教出版の御意見をいただいております。読解しやすいように本文を「学習活動・学習内容・友だちの発言」の3つの役割ごとに分かりやすく示している。学習問題を追究・解決する手立てとなる「見方・考え方」や「まとめ方・読み取り方」などを示した「学び方・調べ方」などのコーナーが設定され、観察や見学表現活動の質を高める手立てが工夫されている。社会科の特質を活かした主体的・対話的で深い学びを行う場면을積極的に取り入れている。という3つの御意見をいただいております。以上です。

○内田教育長 それでは、御意見をお願いいたします。

○豊田委員 阿部先生が専門なので、できたら。

○阿部委員 近畿地方が大きくとりあげられてるっていうのはものすごく大きなアドバンテージだし、やっぱりこういう身近っていうかせめて名前ぐらい知っているところから学んでいくってのが大切だろうなと思ってたので、もう天ヶ瀬ダムが出てきた段階で、それはもう。教科書で見たものがですね、行こうと思ったら行けるわけですから、

そういうのはやっぱり大きなアドバンテージかなあと。会社もやっぱり大阪の会社なんですよ。ぱっとみは、やっぱり東書は高学年の教科書に分冊化しているっていうのは、あんまり議論にというか話題にならなかったんですかね。すごく大きな特徴だと思うんですけども。教科書の持ち帰り、サイズ、軽量化もそうですけれども、多分、みんな思いがあると思いますが、新しい教科書もらった時ってすごいわくわくするので、新学年だけじゃなく、上から下になったときも、新しい教科書でそのときはすごい勉強頑張ろうと思うんですけど。あのわくわく感って結構、好きだったので。もちろん日本文教出版でいいですけども、教科書が高学年になったときに、結構、すごい重たいのが一冊ってのが結構、多いので、2分冊ってのは僕は大事にしたいなと思いましたけどね。

○豊田委員　そうですね。私も実は日本文教出版は重いなと思って。やっぱりこれも上下巻にするっていうのは大事なんじゃないかなと。ただそれだけではね、それは中身と関係ないことなんですけど、東京書籍はやっぱり細やかなところまでしておられるなって。やっぱり対話的な授業を導き出すっていうので、なにになにさんから聞きましたみたいなコーナーがね、どの教科書も多いですけど、東京書籍さんなんかは、割と実際にその人の顔もちゃんと映して、イラストとかじゃなくてですね、実際にこういう人がいて、こういうこと言ったんだっていうような自分と繋がってるっていうようなイメージが持ちやすいような工夫がされているし、どっちかっていったら記述的にも意見集約集なんかにも書いてあるんですけどもやっぱり軍人の名前が何回か出てくるとか、あと自衛隊のトップが総理大臣になることもね、民主の象徴であるみたいな書き方がされてたりとか、ちょっとデリケートな、社会の教科書はデリケートなところがいっぱいあって難しいんですけど、身近なね、題材を取り上げているっていうのが一番の強みであって、でもそこにあぐらをかきような作り方はできればどんどん改めてもらって、いまあぐらをかいてるって言うてるんじゃないですけど、色んなその会社の作ってくださってる教科書のいいところをお互いに取り込んでいって欲しいなと思いながら、ちょっとこれは選びきれずに、社会の教科書は選びきれませんでした。

○内田教育長　わかりました。それでは、協議を終わらせていただいて、久御山町の来年度から使用する教科書を決定していきます。社会科につきましては、日本文教出版に決定させていただくことで賛成の委員の皆様は挙手をお願いします。

○一同挙手

○内田教育長　全員挙手でございますので、社会科につきましては、日本文教出版に決定させていただきます。続きまして社会科の地図についてでございます。

○小川学校教育課長補佐　地図は、東京書籍と帝国書院の2社です。まず東京書籍は、日本の位置、範囲、領土に対する問題、国土の地域環境の特色、自然災害と防災などについて正確な理解が図られるように工夫され、特に日本の歴史や伝統、文化に関する内容が充実しています。「ポップ、ステップ、マップでジャンプ」を随所に設置し、70の

問いと作業に取り組むことができ、楽しく地図学習に取り組むことができるようになっていきます。また、気候に関する資料地図を夏と冬、それぞれの気温と降水量に分け、模式図や衛星写真、雨温図と合わせて、日本の特徴を考えることができるようになっていきます。帝国書院は、地図に対する興味関心をひきつけ、地図活用技能や知識が身につけられるように、「地図マスターへの道」のコーナーを全100問設けてあり、自学自習を進める中で地図活用のスキルや社会科の知識を身につけられるようになっていきます。巻末には取組を記録できるページがあり、問題の答えを確かめながら自学自習を進めることができるようになっていきます。また、生涯にわたって地図を使いこなすための基礎基本の習得にむけ、「地図の約束」や「地図帳の使い方」のページが丁寧に扱われていたり、京都・大阪・奈良が大きく載っていたりします。広く見渡す地図では、東京書籍が100万分の1であるのに対し、帝国書院は160万分の1の地図を配置し、第3学年における地図活用導入期への配慮もされています。また、2社ともに、二次元コードからアクセスできるコンテンツを多数設け、端末を活用した主体的な学びにつながるコンテンツが収録されていることも特徴としてありました。山城地区で採択された結果は、帝国書院が採択されています。理由としましては、「地図マスターへの道」が有効活用できること。第3学年に対して160万分の1で地図を大きくして情報をシンプルにしたページがあることや、地図帳の使い方が丁寧であること。また6年生の学習では、歴史の地図が活用できること。そして土地の高低の色が濃く尾根や谷がわかりやすいこと。そして最後にページが増えたことによって様々なことが充実していることが挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 それでは田口委員の意見をお願いします。

○前山学校教育課長 田口委員の方からは帝国書院について御意見いただいております。3年生でも読み取りやすい要素を精選した地図から高学年に向けた詳しい地図まで、学年ごとに使い分けられるようにしている。「地図マスターへの道」コーナーを設け、地図活用能力が身に付けられるように工夫してある。京阪神の詳しい地図がある。この3点について御意見いただいております。

○内田教育長 はい。それでは御意見お願いいたします。

○豊田委員 東京書籍さんなんですけれども、やっぱりグローバルの視点を取り入れたってところが、すごく感心するところがありました。例えば山の高さがイラストになっているところなんかでは、世界の山もちゃんとイラストの中に入ってますね、日本の中だけの、国内での比較じゃなくて世界の山と比べて日本の山がどうかっていうこととか、例えば色んな国の輸出入なんかのただ数字で羅列されているようなところがあるんですけども、でも、それも日本に対しての輸出であるとか輸入であるとかがどうかということも抜粋して、なんていうかグローバルな視点に繋げていきやすいような配慮を今回されたのかなという。紙面としてもすいぶん賑やかで、低学年の子でも興味を

持って開けるんじゃないかなというところが、配慮かなと思いました。帝国書院さんは、さっき、今、言っていたようなきめ細やかな地図として、とても優れている、本来のね、しっかり押さえてあるという感じで。低学年は東京書籍で、高学年になったら帝国書院で、なんかそんでもいいかなというぐらいの、どっちともいいなって思うところがありました。

○内田教育長 なるほど。わかりました。阿部委員、お願いします。

○阿部委員 帝国書院は地図帳の専門の会社みたいなものなのでやっぱり地図帳の部分は、工夫、すごいしているし、この地図マスターへの道とかうちの子どもとかすごい大好きなので、いいなと思うんですが。

○内田教育長 わかりました。ありがとうございます。それでは協議を終わらせていただき、久御山町としての来年度から使用する教科書を決定してまいりたいと存じます。地図につきましては、帝国書院に決定させていただくことに賛成の委員の皆様の挙手をお願いします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。よって地図につきましては、帝国書院に決定させていただきます。続きまして算数です。よろしくをお願いします。

○小川学校教育課長補佐 算数は、東京書籍・大日本図書・学校図書・教育出版・啓林館・日本文教出版の6社です。まず東京書籍は、デジタルコンテンツ数が1450で、練習問題が豊富に入っています。練習問題では正誤の履歴が残り、児童のつまずきを把握できるようになっています。単元の流れとしては、前半は資質・能力を確実に育むために、吹き出しや補助発問などが設定され、単元の中盤から後半にかけては、前半に培った資質・能力を発揮し、問題解決できるように、抜き出しや補助発問を意図的に減少させるような設定となっています。大日本図書は、デジタルコンテンツが1445で、その多くはコンパスなどの作業的な動画や練習問題でした。入学初期の内容をA4版で、別とじて製本されていて、1年生であるブロック作業などがしやすくなっています。また、目次には、当該の学習とその前後の学習とのつながりを示すなど、学年間の接続が図りやすいようになっています。学校図書は、算数の学習において重要だと考えられる9つの見方・考え方を、9体の考え方モンスターとして、数を表やグラフにまとめたりする時には「マトメール」、どうしてそうなるのか、理由を順番に考える時は「ナーゼ」など、児童が興味・関心を持てる学習ができるように登場させています。学校図書だけ紙面がAB版で、スペースができる分、分度器であったりとかコンパス等、そういったものの作業がしやすくなっています。教育出版は、単元導入部分では、身近な題材から算数の問題を発見して、目的意識を持って数学的活動に取り組めるようになっています。単元末に、「学んだことを使おう」というコーナーを設け、学習したことを活用することで「何ができるようになったか」を実感できるようにしています。啓林館は、デジタル

コンテンツが1614で6社の中で一番多い数でした。中でも、解説の動画が970と、とても豊富で家庭学習などでの学び直しにも活用できるようになっています。学習の進め方が大変明確で、毎時間、めあてと、それに対してのまとめが例示されています。1時間の配分が、見開きまたは1ページで学習の目安が大変分かりやすくなっていて、児童が自ら問いの見通しを立て、主体的・共同的によりよい解決に向かうことができるよう展開されています。日本文教出版は、デジタルコンテンツが838で、問題を解くヒントや答えを全ての問題の中に表示されていました。1年生の初期段階については、生活と算数を絵本の読み聞かせのようになっていると、幼児期の活動と算数のつながりが絵本仕立てで描かれている形です。5年生、6年生については、中学の学習において特に必要と思われる単元にマークがついて、児童が中学校での学習の意識を持って取り組めるようになっています。山城地区での採択の結果なんですけども算数は、啓林館が選択されています。理由は、デジタルコンテンツが6社の中で最も多いこと、児童の主体的な学習の手助けとなること。しかも、その内の約6割が解説動画となっていて、児童が家庭学習を行う時などに学び直しがしやすくなっていること。単元のキーワードが豊富なことや、テープ図や線分図が系統的に使われていることなども挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 はい。続きまして田口委員の御意見をお願いします。

○前山学校教育課長 田口委員からは啓林館について御意見いただいております。家庭学習への意欲、学び直しができる。コンテンツが多く、解説動画が充実している。長年培ってきた算数科指導の基本が詰まっています。指導しやすい。以上3点について御意見いただいております。

○内田教育長 はい。それでは、御意見のほうお願いいたします。

○豊田委員 東京書籍さんは問題がすごく豊富で多い。算数好きな人には喜んでもらえるだろうという感じでした。それから啓林館さん、スタートブックがついていて。今、啓林館さんですよ、使いやすいなっていう、子どもと一緒に勉強してても使いやすいなっていう。デジタルコンテンツのまさにその内容なんですけども、一番やっぱり解説がしっかりしているし、他の出版社さんだと、その答えそのものではなくて、なんというか、学びリンクと連動してて問題そのものの答えではなくて、何かもう一回、基本に立ち返るみたいなところに飛んでしまったりして、じゃあ結局、この問題の答えは何だったんだっていうところが、出てこないっていうのがあったりして、一応全部デジタルのところ、入っていったんですけど、東京書籍さんと啓林館さんは、デジタルの内容としては一番しっかりしてるなと思いました。教育出版さんはところどころに漫画が入っていて、4コマ的な感じのね。ちょっと息抜きしながら子どもが気を取り直して、ちょっと難しいところ行く前には、どの子どもでも思いそうな疑問を先に漫画に載せてあって、そこから入っていくっていう感じの工夫がされていましたし、学校図書さんのポケ

モンのキャラみたいなやつは理科の教科書とかにも出てて、これでいってるんだなって、これを切り口におしていってるんだなっていう工夫のしどころを感じました。大体、そんなところですよ。

○阿部委員 啓林館はデジタルコンテンツが多くて家庭学習の時に役に立っているというのはなるほどと思いましたね。数学というか、算数とかはあまり親が教えない方が良いと思っていて、私も時々、聞かれるから教えるんですけど、まだ習っていないテクニックを使って、こんなもんX、代入しろと言ったら、そんなもん習っていないって言われるので、あんまり算数って、その学年学年でやった解き方でやらないといけないので、あんまり下手に親が教えない方がいいなと最近、思ってるので、家庭学習の時に役に立っているというのは、あ、なるほどと思いました。あと、ひとつですね、お伺いしたいのは、プログラミングっていうのは、今、必須なんですよ。プログラミングっていうか正しくはプログラミング的思考。これ学年がバラバラなんですけど、この時にこう教えるとかいうのはあまりないんですか。条件分岐はこの学年とか。そこまではなっていないんですかね。

○小川学校教育課長補佐 ちょっと、すみません。どうでしたっけ。

○内田教育長 見せてもらいますと、全学年であるんですけど、プログラミング的思考を培った、その上で、例えば総合的な学習であったり中学校の技術、そのあたりに繋げていく。

○阿部委員 小学校では算数の中でやって、中学になって技術。

○内田教育長 どちらかというところ、今は総合的な学習の時間で特化して情報教育として扱っていますね。

○阿部委員 今、うちの息子がすごいプログラミングにはまっていて、親がみても全然分からない中でシャカシャカやっているの。学年ごとにプログラミング的思考をいれるっていうのは決まっていたことだと思うんですけど、それをどういう風に教えていくっていうのはまだあまり確立していないのかなっていうのは思いました。

○豊田委員 やりたい子はやれるようにQRコンテンツみたいなので算数の教科書にちょっと仕掛けがしてあるみたいな感じじゃないですかね。レッツプログラミングみたいな。多分どの教科書にもちょっとした意識はされてると思います。やりたい子だけ入っていくみたいな感じの。

○内田教育長 よろしゅうございますか。それでは久御山町としての来年度から使用する教科書を決定させていただきたいと思っております。算数につきましては、啓林館に決定させていただくことに賛成の委員の皆様の挙手をお願いいたします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。算数につきましては、啓林館に決定させていただきます。次は理科ですね。

○小川学校教育課長補佐 理科は、東京書籍・大日本図書・学校図書・教育出版・啓林館の5社です。東京書籍は、各学年の巻頭に、アニメーション動画があり、日常生活の中にある理科と関わりが深い場面を記載し、児童の興味・関心を引く内容となっています。学習の流れについては、問題解決の過程を「学びのライン」として、教科書の左に作り、児童が見通しを持って進めやすいレイアウトになっています。また、単元の導入を重視し、問題をつかむための「レッツトライ」という活動を用意し、主体的・対話的に問題をつかむことができようになっています。サイズがA4版となっていて写真等が大きいのも特徴の一つです。大日本図書は、ほとんどのページに実験の動画や準備物などのQRコードが同じ箇所に配置してあります。観察や実験の結果などの書き方などが丁寧に示されていて、児童の自由な発想や表現を引き出すことができるようになっています。また、活動の後に行う「深めよう」や「学んだことを生かそう」などを通して、学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめ、理科を学ぶことの意義などを意識しようとする態度が育まれるようになっています。学校図書は、みんなと学ぶをキーワードに、見える、つながる、広がるという三つのポイントがあり、「理科の世界を冒険しよう」というテーマで学習を進める形となっています。単元の冒頭では、特につけたい資質・能力が何かを示しています。また、算数と同様に、学習の中で、いろいろな見方や考え方を働かせながら、力をつけてほしい場面では、身の回りのいろいろなことを比べて問題を見付ける「発見モグラ」や学んだことを他の学習や身の回りのことと繋げて生かす「いかすヒツジ」などのモンスターを登場させて、児童の興味を引きつける工夫があります。教育出版は、単元の導入で、子どもが活動している様子や不思議を感じさせるものなど、子どもの「なぜ？」を引き出しやすい写真が掲載されています。また、各学年の巻頭に、「学習の進め方」をわかりやすく表現し、それに続く紙面も同じ表現で「見つけよう」「問題」「予想しよう」と順番に展開することにより、児童が見通しをもって学習を進めることができるようになっています。最後に啓林館は、「わくわくが膨らむ」「学びが暮らしにリンクする」「学びが未来につながる」「問題解決×ICT活用」をコンセプトに上げられ、全体的に問題の設定、単元を通した問いが生活と結びつけられていることが多く、全単元末にある暮らしとのリンクでは、理科の有用性を感じさせたり、働く人のインタビューを載せてキャリア教育にもつなげたりする工夫があります。また、各単元末にあるまとめノートでは、学びをノート形式で整理できるとともに、情報活用能力や問題解決の力を育むCBT問題を新設され、QRコードでの補充問題にも取り組むことができるようになっています。山城地区の結果は理科は、啓林館が選択されています。理由は、観察・実験をどのように行っていくかが重要で、そのやり方の写真やイラストが児童にわかりやすいレイアウトになっていること。小グループで、協働的に学習を行っていく場面設定が多くあり、児童同士が高めあいながら学習を進めていること。理数系の教科として、算数との関係性があった方がいいということ

もありました。またC B T問題が新設されてることも理由として挙がっています。以上になります。

○内田教育長 続きまして、田口委員の御意見をお願いいたします。

○前山学校教育課長 田口委員からは啓林館について御意見をいただいております。場面設定の写真や絵などの導入で、資料や写真が見やすくレイアウトされ工夫が見られる。単元末にある「まとめノート」では、その単元での学びが整理できる。2点について御意見いただいております。以上です。

○内田教育長 それでは委員の御意見をお願いいたします。

○豊田委員 東京書籍さんは相変わらず、すごく導入がうまいというか、不思議ダネとか、子どもがね、その種からどう育てるかとか、本当に惹きつけるのがうまいなど。これからこういうことを勉強していくんだなという見通しもよくわかるし、ごちゃつかず見やすい紙面でいいなと思いました。学校図書さんは読み物的な、自由研究のね、すごくこう読み応えがある感じで、ぐっと読んでいける。雑誌かなってというような、どこに目をやっても読んでいけるような感じでそれはそれでまたひとつの魅力かな。教育出版さんはNHKのリンクと連動されてて、すごくQRコードから入っていく動画としては、ナレーションがプロのナレーションが入ってたりして、これはひとつの強みかなと。啓林館さんは本当にイメージをわきたたせるのがうまいなど。実験やってみようとか、どうしてだろうとか、子どもの最初の着火というか子どもがやりたいって思う、その引っ張るのもうまいし、それをまた作業に結びつけていくのもまた上手だなと。

○内田教育長 はい。ありがとうございます。では、阿部委員お願いします。

○阿部委員 今、気づいたり、一般の意見であるんですけども、理科はあんまり意見がないというか、道徳とかはすごく意見がいっぱいつくんですけど、理科はちょっと決めがたいというか、どこも基本的には、全部教えるべきことは、当たり前ですけどもクリアしているし、あとは現場の先生方が使いやすいと思うものがやっぱり一番良いと思います。

○内田教育長 わかりました。他に御意見はございませんか。

○委員全員 はい。

○内田教育長 それでは、協議を終わらせていただいて、久御山町としての教科書を決定させていただきたいと思います。理科につきましては、啓林館に決定させていただくことに賛成の委員の皆様は挙手をお願いいたします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。よって理科につきましては啓林館に決定させていただきます。ここで5分休憩させていただきます。お疲れさまでございます。

《再開》

○内田教育長 それでは、引き続きまして生活科の説明をお願いします。



○小川学校教育課長補佐 はい、生活科です。東京書籍・大日本図書・学校図書・教育出版・光村図書・啓林館の6社です。東京書籍は、上巻の巻頭のスタートブックを13ページにわたって掲載し、保護者にもスタートカリキュラムの重要性を分かりやすく示されています。巻末に、「べんりてちょう」として、行動の注意や活動の方法などの資料が整理されています。学習課題の掲示から、学習のめあての把握、体験活動や調べ学習の方法、まとめや表現活動の仕方などが、具体的に示されていて、基礎基本の学習内容が定着できる構成となっています。大日本図書は、具体的な活動や体験を通して、必要なあいさつ、人との接し方、学校や地域・家庭でできる生活習慣、道具や手を使う生活技能等が身につけられるようになっています。また、単元と単元のつながりでは、活動後の振り返りから、児童の思いや願いを元に次の活動へと繋がる流れを意識した紙面の工夫となっています。学校図書は、全単元を通して、色々な人やものと、直接関わる活動や体験を多く取り入れていて、それらを工夫したり改善したりする様子を示すことで、活動の良さや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活につなげるようになっています。また、キャラクターや写真によって子どもたちが意欲的に活動できる様子が取り上げられています。教育出版は、単元の初めに「学びのポケット」の参考指示が示されていて関連的な指導の目安となる教科でつけたい知識や技能の習得を促すようになっています。また、「ヒント」や「約束」「言えるかな」など、発想のヒントとなるコーナーがあり、自主的な学習に取り組むきっかけとできるようになっています。ステップブックでは、生活科で学んだことが各教科へどのようにつながるのかを資料等で具体的に示しています。光村図書は、単元の導入ページでは、児童が身近な対象について、自分との関わりで興味・関心を高められるように、これまでの経験を想起し、学習の見通しがもてる問いかけがあったり、身近な学習材料の写真がダイナミックに配置されたりしています。また、ステップごとに「意欲と見通しをもつ」「学びを深める」「振り返る・つなげる」という流れで、学習の展開がわかりやすくなっています。啓林館は、スタートブックを15ページにわたって掲載し、保護者への啓発のみならず、子どもたちが明日も学校へ行きたいという意欲を持つような資料等が掲載されています。単元の導入で「わくわく」、主たる活動で「いきいき」、振り返りで「ぐんぐん」の3段階で構成されていて、児童自身が学習の流れを見通すことででき、見開きページの右下には、次の段階につながるリードが明示されていて、児童は、活動の連続性や広がり、深まりを意識することができるようになっています。また、「びっくりずかん」「がくしゅうずかん」「デジタルずかん」という3つの図鑑があり、児童の知的好奇心や探究心をくすぐることをねらった豊富な資料が掲載されています。山城地区での結果なんですけど生活科は、啓林館が選択されています。理由は、様々な活動のイラストや生き物の写真などの資料が多いことが主体的に学ぶ子どもにつながることで、単元の配列やそのバランスがよいこと。児童にとって安心安全な活動が身につけることができるようになっていることで、

保護者も安心できることから就学前教育からのつながりが丁寧であることも挙がっていました。以上です。

○内田教育長 それでは田口委員の御意見をお願いいたします。

○前山学校教育課長 失礼します。それでは生活科については啓林館について御意見いただいております。子どもたちの興味を高めるものとして資料が充実している。安心安全スタートカリキュラムの充実。「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の構成で学習がパターン化されている。という3つの意見をいただいております。以上です。

○内田教育長 はい。それでは御意見のほうお願いします。豊田委員、お願いします。

○豊田委員 生活科については、本当に楽しい、どれも教科書っていうよりはすごく楽しいつくりになっている。どこの会社も工夫されているし。もちろん、東京書籍さんなんかは、このページの幅をちょっとずつ短くしていって、種がどうなっていくかっていうことを、ページめくらなくても見えるようにとか色んな工夫をされてたり、各会社とも色んな工夫があってすごく楽しいんですけど、光村図書さんなんかは、既成の概念を打ち破るような、1年生の、足から火がでて、鉄腕アトムみたいに学校飛んでいくイラストから始まったりとかしてね、私としては、そういうの好きなんです。今までと違うところにいくっていう、そういうのすごい好きなんです、光村さん、すごい違う切り口でやってきたなと思って。私としては、結構読んでしまいましたけど。例えば探検とかってね、虫を探しに行こうとかでも、やっぱり気をつけなくてはいけないとか、危ないことっていうのもやっぱり伴いますし、そういうところがきちっと注意喚起されているかなと啓林館さんは感じます。他にもちゃんと書いてある会社もありますけど。楽しいばかりじゃない、気をつけなくてはいけないというところで、書き持ってというところが、おそらく先生方も同じなんじゃないかと思われたんじゃないかと思ったりしました。

○阿部委員 生活科って自分が受けたことがない科目だから、あんまり頭ではわかっていてもイメージができないですね。教科書は上下ってのは学年で分けているわけではない。

○小川課長補佐 学年ですね。

○内田教育長 1年生と2年生です。

○豊田委員 2学年1冊ってのはなかなか他ではない。

○阿部委員 1年生が上なんですね。

○豊田委員 1、2年生が上です。

○阿部委員 じゃあ、ちょっと見方が間違えていたかも。どこの会社も、イラストというか写真が豊富で。

○豊田委員 光村図書さんって前からこんな振り切り方してはりましたっけ。鉄腕アトムみたいに1年生がドァーって、あって思いましたけど、どういう流れがあるのかなって思いましたけど、生活科のその教科書自体に。

○阿部委員 鉄腕アトムって今の子、分からないですよ。

○豊田委員 そういえばわからないですよ。今の子どもたちね。これは余談になってしまうんで、時間がないときに申し訳ないんですけど。面白いなって思って。どれもこれも、色んな工夫されてていいなって思いましたけど。

○内田教育長 そうですね、やっぱりこども園で自分で見つけてそれを友だちと話し合いながら遊び込むというその流れの上に立っている生活科ですので、何かを教えるっていうよりは、子どもたちがわくわくしながら発見して、広げていく。そしてまた理科や社会に繋がっていくっていうようなそういう観点が大事だと思います。

○豊田委員 光村図書さんはニコニコ大作戦とかでね、お手伝いしてみようとかじゃないんですよ。ニコニコ大作戦って、結局、お手伝いの先にあるものをきちっとスポット当ててみんなが楽しく健康的に暮らしていくための助け合いなんだとか、そのための家事なんだとかっていうところで、だいぶ先駆けているなっていう、私としては光村図書さんが挑戦的な姿勢でやっておられる、攻めてるといえるか、いいなと思ったんですけど、それはすすめていくっていうのももちろん先生もおられますし、別に異存はありませんけども、私としては好きでしたね。

○内田教育長 なるほど。ありがとうございます。では採択の方させていただきます。生活科につきましては、啓林館に決定させていただくことに賛成の委員の皆様は挙手をお願いいたします。挙手全員でございます。よって生活科につきましては啓林館に決定させていただきます。続きまして音楽科お願いいたします。

○小川学校教育課長補佐 音楽は、教育出版・教育芸術社の2社です。教育出版は、まなびナビという枠にある発問がシンプルでわかりやすい言葉で書いているので子どもたちにとって捉えやすく、考えてみようという気持ちになり、思考力の育成に繋がるようになっています。また、全体的に写真やイラストが多く、歌詞の情景や様子が思い浮かべやすくなっています。対話を促す場面では、3年生ではキャラクターによる話し合い活動の例が示されていて、自分の考えを持ちやすくしてあります。教育芸術社は、6年間を見通した題材を、各学年に設定し、題材の狙いに即した教材を配列し、系統的な学びができるように工夫され、全題材において題材の最初のページに目当て、最後のページに振り返りが示されており「何を学ぶのか」「何ができるようになるか」を明確にして学習活動を提示し、学習指導要領が示す内容が達成できるようになっています。また、題材の最初のページには「めあて」が、最後のページには「振り返り」が示されていて、指導と評価の一体化を図れるようになっています。アイコンがふんだんに使われていて、考える、見つける、歌う、演奏する、作るのアイコンが分かりやすく掲示されています。山城での採択の結果なんですけれども教育芸術社が選択されています。理由は、「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」が明確になっていることで、音楽指導が苦手な教師でも使用しやすくなっていること。各単元に、「見つける」「考える」「歌う」などのアイコンがあり、児童が何に気をつけて歌唱や演奏を行えばいいのかという

学習ポイントが明確になっていること。また、そのことにより、児童が見通しを持って主体的に学習に向かうことにつながることなどが挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 はい。続きまして、田口委員の御意見をお願いします。

○前山学校教育課長 はい。田口委員からは教育芸術社について御意見いただいております。「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を明確に示し、指導要領が示す目標が達成できるように導いている。という御意見をいただいております。以上です。

○内田教育長 はい。それでは、御意見のほうをお願いします。

○豊田委員 教育出版ですけれども、紙面構成が他の教科書とのちょっと繋がりを感じられるような配置バランスっていうか、ちょっと馴染みがある、入っていきやすいんじゃないかな。鍵盤の指使いなど間違いやすいポイントをよく捉えた強弱のあるイラスト。教科書を作るということに関しては、やっぱり上手だなと。曲のイメージが膨らむようなね、写真をうまく使ってみたりとか。ただやっぱり教育芸術社の方は、専門性っていうんですかね、音楽を勉強するっていう、教科書としての質ということもさることながら、音楽を学ぶということに関しては、やっぱり専門性があるっていうんじゃないかなと。よく考えてみれば音楽の授業っていうのは、子どもが教科書を読んで勉強するっていうよりも、顔を上げて歌ったり活動したりするわけで、先生が教科書を読み込んだ上で、教えなくてはいけないので、教科書としてのつくりということもさることながら、専門性がしっかりある教科書というのが大事なのかなと。そういう感想です。

○阿部委員 音楽の教科書って、どう違いをみたらいいのか、あんまりよくわからなかったのですが、教科書によって教えやすさが変わるんですかね。

○豊田委員 音楽が苦手な先生だったら教育出版の方が、先生としても入っていきやすいかなと思うんですよ。教科書を見てくださいとか、鍵盤の指使いなんかでもね。教育芸術社の方は、ある程度してからちっちゃく指を変えていく、ドレミのあとは指を変えないといけないですよ、ああいうところとかもちっちゃくイラスト載ってるんですけど、教育出版社の方は、最初に鍵盤ダーンとあって、だから、その入りとしては、教育出版の方が入ってはいきやすいのかなと思うんですけど、ある程度のレベルまで上げていってあげたいと思ったんです。やっぱり合唱コンクールとか、本当に音楽っていう世界を広げていく可能性っていうか、そういう意味では、それこそ低学年は教育出版で高学年になったらとかそういう感じとかね、やっぱりいいところがそれぞれにあるので、どちらを選ばれるかは、教えられる先生方のやりやすさによるんだろうなと思うんです。

○内田教育長 QRコードの活用でいうと、やはり教育芸術社の方が開いてみたときに、非常に子どもが何度も練習したり歌ってみようという感覚になるのではないかなと思いますね。

○阿部委員 うちの子とか、鍵盤ハーモニカは鍵盤ハーモニカの教科書みたいな使って。

○内田教育長 練習帳ですね。

○阿部委員 練習帳は教科書に付随しているわけではない。

○内田教育長 別です。

○豊田委員 ドリルみたいなものですね。漢字ドリルとか。算数ドリルとか。

○阿部委員 それは熱心に見てますけど。音楽の教科書を家に持って帰って使ってるっていうのは、あんまり。高学年になったらリコーダーのやつを持って帰ってきてますけど。

○豊田委員 実技ですからね。音楽はどっちかっていったら実技じゃないですか。教科書と教える側との教科書との距離感とか難しいところがありますよね。きれいなままで終わる教科書ですよ。音楽ってどっちかっていうと。

○内田教育長 やっぱり歌うというよりクリエイティブな部分で、音作りだとかリズムづくりなどに、特化していると思えましたね。そうしましたら、来年度の使用する教科書を決定させていただきたいと思います。音楽科につきましては、教育芸術社に決定させていただくことに賛成の委員の皆様の挙手をお願いいたします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。よって音楽科につきましては教育芸術社に決定させていただきます。続きまして、図画工作科です。お願いいたします。

○小川学校教育課長補佐 はい。図画工作科は、開隆堂・日本文教出版の2社です。開隆堂は、学習の振り返りの観点が焦点化され、何について振り返り、書いたり、話し合ったりすればよいかの分かりやすく、学習の目当ても意識化しやすいようになっています。共同で取り組む活動の様子や話し合い活動の様子の写真掲載が多く、他者を意識した活動を取り入れ、話し合いが活発になるようなヒントも示され、相互理解が進む活動になりそうな工夫があります。また、題材のページが見開きで、全ての題材が、右上から「用具」「学習のめあて」「単元名」「活動を促すリード文」、下段には「タブレット端末で」「かたづけ」「ふりかえり」などで構成されているので、学習の流れがわかりやすくなっています。デジタルコンテンツは、用具の使用法や、絵の具の技法、片づけ方などが掲載されていて、基礎的な学びの習得ができます。掲載作品の説明欄には、製作時の工夫の分かるコメントが添付されているので、目のつけどころなど学びのヒントになります。日本文教出版は、育成する資質・能力の3つの柱に基づく「学習のめあて」を全題材に設定し題材の初めに記載してあります。学習の流れやめあてがわかりやすく児童が見通しを持って学習できるようになっています。また、題材によっては4ページにわたるものがあり、様々な作品の写真を掲載していることに加え、特に児童がイメージしやすいようになっていることや掲載作品がシンプルなものになっていて、児童の発想の広がりが期待できるようになっています。特に、低学年では、造形遊びの材料について、シンプルなものが提案されていることで、児童の多様な発想を引き出すことがで

き、思考力・表現力の育成につながると考えられています。山城地区での結果なんですけれども日本文教出版が選択されています。理由は、実際に学習している様子の写真を使用し、モデルとなっている子ども達の表情がとても楽しそうで、その活動の雰囲気わかりやすく、実際にその学習に入りやすいこと。ねらいの掲示など学習の流れがわかりやすく掲載されているので、児童が学習の見通しやイメージを持ちやすくすることが挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 はい。続きまして田口委員の御意見をお願いします。

○前山学校教育課長 はい。田口委員の方からは日本文教出版について御意見いただいております。単元導入時の声かけがわかりやすく、写真に関する吹き出しのコメントに、工夫する上での視点や発想のヒントが明示されている。という意見をいただいております。以上です。

○内田教育長 それでは御意見の方、お願いします。

○阿部委員 確認なんですけど、今も日本文教出版ですか。

○小川学校教育課長補佐 はい。

○阿部委員 いや、今、開隆堂だったというおぼろげな記憶があったので、変えたのかなと思ったんですけど、継続ということですね。

○内田教育長 はい。日本文教出版ですね。はい、お願いいたします。

○豊田委員 日本文教出版の方ですけど、やっぱりその身の周りの色とか材料、あとは道具としての手、色んな彫刻刀とかそういうのもないんだけど、手を使ってっていうような作業から入っていくというところで、やっぱりその子どもがやってみたいとかやれるかもしれないっていうそういうイメージを喚起させる教科書になってるなと思いました。作品例にしてもですね、完成したものがたくさん載ってるっていうのは、工程がちゃんと載せてあるので、あ、こうすればできるんだっていうのは、やっぱりできあがったものばかり見るよりも、この工程をみるっていうことが自分たちでもできるかっていう思いになりやすいと思いますし、今、おっしゃってくださったような、日本文教出版のことは、本当に私もそれがいいなと思いました。開隆堂さんもQRコンテンツにどんどん入っていけば、色々と工夫されていると思うんですけど、やっぱりそれだったらQRコードが並ぶことになってしまいますので、教科書としてね、導入の部分で子どもがイメージを喚起させられるというか、やる気になるとかそういうところっていうのはすごく大きいんじゃないかなと、日本文教出版さんがいいなと思いました。

○内田教育長 ありがとうございます。阿部委員お願いします。

○阿部委員 音楽と同じで、技術の科目ですから、教科書の方をどういうふうに位置づけるかっていうのが、僕の中であまり馴染みがないんですが、話しとか聞いていると、話し合いがしやすいように、児童間の話がしやすいつくりになってると。技術は、音楽もそうですけど、児童間で話し合う必要があるんですかね。

○豊田委員 そうなんです。何を目的とした授業をするかっていうことも。例えば、美術とかポスターとかでもね、先生がね、例えばこんな絵とか描いちゃったりとか絵の得意な子が先にさらさらっと描くと、それを見てて、みんな似たような絵になるんですよ。絵のうまい子が1枚描いたら同じような構成の絵が必ず5、6枚ずらずらっとでますよね。だからやっぱり難しいところで、先生が例えばこんなふうとかってやってしまったら、子どものその自由な発想を妨げる結果になったりもするので、だから何を目的として授業するかですよ。その辺が、だから日本文教出版は上手にそれぞれの子どもの何か、何かをくすぐるみたいな感じもそういうことが意図されてるんじゃないかなっていうふうには思いましたけど。話し合いとかはね、全部終わってからもいいじゃないですか。全部終わってからの方がいいんじゃないですか。

○阿部委員 話し合いってというのは作品批評みたいなことですかね。

○豊田委員 どうなんですかね。いや、わからないです。

○内田教育長 やっぱり色々、作品を途中経過でもみんなで見あって「あ～、この人こんなとこ工夫してる、気がつかなかった」っていうのを自分の作品に取り入れるっていうことで工夫を重ねるっていう意味では、話し合いは大事なんですよね。

○豊田委員 プレゼンテーションというところですね。

○内田教育長 子どもたちが、よりよいものをより素敵なものを目指すという意味で、誰かの真似をするとかではなく、自分が創意工夫をするためのひとつの手法ですね。

○阿部委員 日本文教出版が面白いなって思ったのは、マスクを着用している児童の写真が多い。これから多分、来年からの4年間、多分誰もしていないと思うんで。最後の方の児童とかって、なんでこの人たちマスクしてるんだらうって不思議に思われるんじゃないかなって。

○豊田委員 語り継がれるんじゃないですか。そんな時代もあったんだよって。

○内田教育長 なるほど。よろしゅうございますか。

○委員全員 はい。

○内田教育長 それでは来年の教科書を決めていきたいと思います。図画工作科につきましては日本文教出版に決定させていただくことに賛成の委員の皆様。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。よって図画工作科につきましては、日本文教出版に決定させていただきます。続きまして家庭科お願いいたします。

○小川学校教育課長補佐 はい。家庭科は、東京書籍・開隆堂の2社です。東京書籍は、「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで学習の流れを示してあり、児童が見通しを持てるようになっていきます。巻頭には、成長の記録というページがあり、各単元の振り返りがメモできることに加え、どの単元でどんな学習を行ったかが一目でわかるようになっていきます。また、防

災については、ガスが使えないとき、缶詰め等の備蓄食材を使った調理や、日々の備えについてローリングストックの考えを取り入れることや、裁縫や調理、整理整頓も防災に役立つことが明記され、日々の生活の中に積極的に取り入れていこうとする姿勢を育てることができるようになっていきます。開隆堂は、見方・考え方が見開きに示されているように、1時間ごとの学習内容の見出しが「なぜ」と探求的になっていることから、意図的に考えさせるようになっていきます。いかす・深めるでは、漠然と考えさせるのではなく、場面設定のもと児童が具体的なイメージを持ち、既習事項を生かして課題解決に向かえる学習となっています。また、年代や国籍など多様な人が登場していたり、LGBTに配慮し、性別で服の色や柄の固定概念を持たないようにしたりするなど、多様性を意識した写真やイラストを多く記載されています。さらに、家族・家庭生活の題材終わりには、生活の見方・考え方の四つの視点を生かした実践例が示されており、児童自ら家庭や地域とどのように関わり、解決するか、主体的に学び、課題を解決していく形となっています。山城地区での採択の結果なんですけれども、開隆堂が選択されています。2社とも、様々な工夫があり甲乙つけがたいということでしたけれども、年代や国籍など多様な人が登場していたり、LGBTに配慮し性別で服の色や柄の固定観念を児童が持たないようにしたりするように、多様性を意識した写真やイラストが多数掲載されていることが選択されたポイントとなりました。以上になります。

○内田教育長 はい、それでは田口委員の御意見お願いいたします。

○前山学校教育課長 はい、田口委員からは開隆堂について御意見いただいております。情報量が多く見やすい配置となっている。多様性により配慮されている。2点について御意見いただいております。以上です。

○内田教育長 はい。それでは御意見をお願いいたします。

○豊田委員 開隆堂ですけれども、問題提起の仕方がすごく優れているなと思いました。例えば、なぜ何々するのだろうか。やっぱり家庭科は生活にすごく結びついた学科ではありますけど、当然するっていうよりは、当然学ばなければいけないから学ぶというよりは、やっぱりそこには必然性であるとか自分たちにとってのよりよく生活するためのやっぱり理由があってしていくというので、最初の問いかけの仕方がすごく上手だなって。なぜ何々するのか。思わず、「あ、何でやったっけ」って、毎日やってる当然のことなんですけど、「何でやったっけ」って、そこから入っていけるとするのはすごくいいなと。生活の必要性とか生活を向上させるということに結びつけた作業の意味を明らかにしながら学んでいくっていうそういう段階を踏むっていうところが、とてもいいんじゃないかと。あと実生活とすごく結びつけやすいつくりになっていて、例えばですね、バッグの作り方とかの写真でも、もちろん東京書籍さんもすごくわかりやすい記載してあるんですけど、例えば2つの巾着袋と手提げバッグですね、私も裁縫するからわかるんですけど、途中までは一緒なんですよ、やってることね。でも持ち手が違うから途中



から工程が分かれていく。それが2段で、紙面の構成上、そうなったのかもしれないですけど、途中まで一緒なんだけど、持ち手が違うから工程が分かれていくっていうところの上下に見比べられるので、すごく分かりやすいと、私としては思ったんですね。一緒だから途中まで。お料理でもそうですよね、途中までは一緒なんですよ。でも煮物なのか炒め物なのかとかによって分かれていくっていうんで、すごくわかりやすいと、私としては思ったりして。色んな細やかな、LGBTに配慮するとか、細やかな心遣いがあるなということを開隆堂さんがいいんじゃないかなと思いました。

○内田教育長 ありがとうございます。阿部委員。

○阿部委員 そうですね、家庭科も技術の分野のところがあるので、何を教えたいのかっていうところだと思うんですけど、言われてから見てみると、すごくダイバーシティに開隆堂が配慮しているなというので。ま、そこは好意的に。で、LGBTというのはどこなんだろう。ぱっと具体的にはわからないんだけど。そうですね、写真とかイラストとかすごく気をつけているので、そういうところからLGBTとかSDGsとかの教育に入っていくのはいいのかなあと。私の時代はね、「私作る人、あなた食べる人」っていうCMが平気で流されていた時代なので、それに比べると、ジェンダーイクオリティとかすごく配慮されてるなど。こちらの教科書もですけど、思いました。

○内田教育長 ありがとうございます。それでは協議を終わらせていただきます。久御山町として来年度から使う教科書を決定していただきたいと存じます。家庭科につきましては開隆堂に決定させていただくことに賛成の委員の皆様は挙手をお願いします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。よって家庭科につきましては開隆堂に決定させていただきます。続きまして保健です。お願いいたします。

○小川学校教育課長補佐 保健は、東京書籍・大日本図書・大修館書店・文教社・光文書院・学研の6社です。まず、東京書籍は、1時間の基本構成が「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4つのステップになっていて、児童が学習の見通しを持ちやすくなっています。また、他教科の既習内容や生活経験との関連を図りながら学習が進められるようになっていたり、デジタルコンテンツが実習や実験動画、またアニメーションや思考ツールなどがあり、児童の理解を深めるようになっています。大日本図書は、つかもう、考えよう、調べよう、生かそうという流れで構成されています。導入となる「つかもう」では、児童に身近な題材を設定し、児童が主体的に学習に取り組むことができるようになっています。資料を見て回答を予測して、活動として「話し合ってみよう」などのグループで行うものを多く配置され、友だちの意見を聞いたり、認めたりすることができるようになっています。大修館書店は、身近な生活の中から課題を深め、それを理解していくための活動として学習をまとめていこうという3つのステップで構成されていました。毎時間の最後に、ウェブクイ

ズ、保健クイズにトライというものがあって、それをタブレットで調べて、解いていくということで、子どもたちの興味等も高めていきながら進めていくという内容になっています。各学習項目の最後に「まとめよう生かそう伝えよう」では、学習過程で身につけた見方・考え方を確認したり、次の学びに繋げたり、実生活や実社会で活用したりすることができるようになっていきます。文教社は、犬のキャラクターが課題を投げかけ、子どものキャラクターが意見を発信して、先生のキャラクターがまとめていくという流れになっています。各単元に話題を掘り下げる場面を設け、児童が考えを持ちやすくするようになっていて、意見交流できるように設定しています。また、もっと考えようでは、他教科の内容や生活経験との関連を図りながら学習を進められるようになっていきます。光文書院は、見つけよう、学習の課題をつかむ、課題に向けて学習活動をする、学習をまとめる、自分の生活に生かすといった5つのステップで形成され、課題解決学習を通じて思考力・判断力・表現力を高めるようになっていきます。各単元の初めにある「見つけよう」で自分の健康課題に気づかせ、習得した知識を活用して考える活動、そして、最後の「学んだことを生かそう」では自分の生活を振り返って見直すという形となっています。最後に学研は、導入、自ら取り組む活動、対話的な活動や活用ということで三つの大きな枠で形成され、導入段階では生活体験、経験を具体的に振り返る場面を設定しています。保健の学習がより身近に感じられるように「ICT活用と健康と安全」や「新型コロナウイルス感染症」など、現代的な課題を豊富に取り上げたりもしています。山城地区での結果なんですけども東京書籍が選択されています。理由は、日常の生活や他の教科とのつながりが具体的でわかりやすいこと。QRコードから見るができる資料がワークシート以外にも多く、児童にとってわかりやすいこと等が挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 はい。それでは田口委員の御意見お願いいたします。

○前山学校教育課長 田口委員からは東京書籍について御意見いただいております。学習の進め方がはっきりしている。自ら課題を見つけ、解決に向けた学習を通して生涯にわたる心身の健康を保持増進するための資質能力を育成できるよう、4つのステップで構成されている。という意見をいただいております。以上です。

○内田教育長 はい。それでは意見のほうお願いいたします。

○豊田委員 東京書籍さんの方は、気づく・見つけるっていうところから入っていく、その切り口がすごく優れているなと思いました。問題提起からまとめる・いかすというパターンがすごくわかりやすく、おそらく進めやすいし、授業を受けている方としても、すんなりと話しに入っていけるのではないかなというところがすごくいいなと思いました。あと、大修館さんの方ですね、男女の発達の違いのところのあとに金子みすゞさんね、みんな違ってみんないいというところを入れたりして、やっぱり色んな子に対する配慮がされてて素晴らしいなと思いました。学研さんはドリル的な感じというか割

と書き込んだり、自分の考えを書き込んでいくところが多くて、それはそれでまたそういうスタイルをしっかり作ってはるんやなという。それぞれありますんで。やっぱり東京書籍さんの切り口、子どもたちに投げかける問題提起の仕方が秀逸かなという感じで東京書籍さんがいいかなと私も思います。

○内田教育長 ありがとうございます。

○阿部委員 体育は教科書どう使う。座学の時に使うのか。

○小川学校教育課長補佐 保健の学習の時に使います。

○豊田委員 保健は保健で。女子であれば生理用品の使い方とかも、ちょっとね。昔だったら男女分けて聞いてましたけど。今はどうされてるかちょっと分かりませんが。保健の授業じゃなくては聞けない話が保健に入ってるんだと思いますけどね。

○阿部委員 どれくらいの頻度でやってるんですか。

○小川学校教育課長補佐 学年にもよりますが、学期にだいたい10時間前後ぐらいになります。

○阿部委員 教科書、どうのこうのではなく、どういうふうにするのかってことが一番かなって。興味がありましたんで伺いました。

○内田教育長 生活習慣病であるとか、喫煙だとか色々な健康被害のあるものについて、科学的に学びます。

○豊田委員 今、発育がすごく発達が早いというかね、小学生の高学年になってきたら服装によっては中学生、本当によく発達した子なら高校生にだって見えなくはない、というようなことなので体の仕組みとか早い段階からよく知って自分の事として捉えておく必要があると思うし、保健の授業は大事だと思います。親がね、しっかり教えてくれるような御家庭であれば、そもそも心配はあまりないと思うんですけど、自分に関する知識として特に女の子なんかは、知っておく必要がすごくあると思う。

○内田教育長 それでは、決定させていただきたいと思います。保健につきましては、東京書籍に決定させていただくことに賛成の委員の挙手をお願いします。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。よって保健につきましては、東京書籍に決定させていただきます。続きまして、外国語ですね、お願いします。

○小川学校教育課長補佐 はい。英語につきましては、東京書籍・開隆堂・三省堂・教育出版・光村図書・啓林館の6社です。東京書籍は、「導入、展開、目標となる実践、視野を世界に」という単元の学習の流れになっていて、特に6年生の教科書では書き込むところが多く設けられています。語彙・表現集としてMy Picture Dictionaryが用意されています。また、デジタルコンテンツとして、アニメーションの動画を多彩に取り入れた内容が多かったです。開隆堂は、各単元のはじまりのページに単元チャートがあり、どんな学習をするのか、どんなことができるようになるのかを記載し、学習の見通

しが持ちやすくなっています。また、言語材料を理解したり練習したりする学習活動を取り組みやすくするために、Ward Book が別冊として用意されています。デジタルコンテンツとしては、音声中心で、授業の中で使うものとして取り上げられています。三省堂は、ゴールの言語活動に向けた自ら目標を立てて見通しを持ちながら学習を進めることができるように、学ぶプロセスをホップ・ステップ・ジャンプとして見える化しています。ABCファンボックスというところで、読むこと、書くことの活動を、スモールステップで積み重ねるようにしています。また、三省堂も、使いたい語句を調べたり語句を確かめたりできるように、別冊で絵の辞典が用意されています。教育出版は、教科書の示し方が、ワークシートのように書き込みながら学習ができるようになっていて、ワークシート形式の学習の進め方になっています。また、使われているイラストが細部に至るまで、多様性に配慮されています。デジタルコンテンツについては、実際の人物が実写で出演している内容が多くありました。光村図書は、各学年にまとめが3か所あり、「聞く」「読む」「話す」「書く」の活動を行い、各領域の到達度を確認できるようになっています。教科書に書くことの内容が精選されていることにより、指導者が学習活動を選択でき、児童の実態に応じて工夫して授業を展開できるようになっています。また、友だち同士で尋ね合うような学習活動が多くあります。啓林館は、各ユニットに3つのステップを設け、各ステップで慣れ親しんだ語句や表現を使ったミニアウトプットを繰り返しながら、スモールステップで学習を進める形になっています。また、児童と一緒に調べたり、話し合ったりできる話題を取り入れた「Did you know?」では、異文化の情報やユニットの活動に役立つ情報を豊富に扱っています。山城地区で採択された結果、光村図書が選択されています。理由は、子どもたちの実態に応じて、指導者が授業の展開を工夫できることなど、柔軟に指導できるということから、子どもたちに投げかけて、子どもたちが英語に慣れ親しみながら、友達同士であったり、指導者とのやり取りも通じて英語の表現に慣れ親しんでいくことができるのではないかということ等が挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 それでは、田口委員の御意見をお願いいたします。

○前山学校教育課長 はい。田口委員の方からは光村図書について御意見いただいております。書き込みが少なく、実態に応じた学習指導を展開しやすい、という意見をいただいております。以上です。

○内田教育長 はい。それでは、御意見のほうをお願いいたします。

○豊田委員 東京書籍さんは、おっしゃったように書く欄が徐々に多くなっていますね、やっぱりちょっとレベルが高めの設定になっているのではないかな。見開いたときにあちこちに課題がちりばめられていてですね、どこをやったらいいのか、どれからやってもいいのかもしれないんですけど、ちょっとぼーっとして授業を受けていると、後から家に帰って開いたときに何やったんだっけ、という感じにならへんかなという。

ちょっとやっぱりハイレベルな感じの設定になっているのかなという印象でした。開隆堂さんですね、東京書籍さんと同じような流れなんではないかなと思ったんですけど、ただ、一番最初に、授業でよく使う、先生が指示される英語とかがね、書いてあるんですけど。そこでね、細かいことですけど「sit down」っていうのがあるんです。でも「sit down」っていうのは、なんていうか、昔だったらそれでよかったですけど、犬にお座りとかね、座れみたいな感じで、教室で使うのであれば。っていうのは、教科書自体がですね、実用的な英語にどんどん流れがいつててですね、リスニングがすごく重要視されてたり、QRコンテンツもそのやっぱり実際に使うっていうことに流れていく中で、授業で「sit down」って先生は言わないですよ。普通だったら「please be seated」とかっていうんですけど、こんなこといつまでも、ちょっと見落としかなっていうような印象を受けました。授業で「sit down」は使わないんじゃないかなっていうところでちょっとそれは残念だなと思って見たんですけど。他の教科書はね、教育出版とかだんだん見やすくなっていくんですよ、だんだんいろいろな子たちがついてきやすいっていうような流れになっていく中で、確かに光村さんは見やすいですし、色んな使い方ができるっていう意味では本当に賛成ですね。啓林館さんは、内容の半分くらいはワードリストで。こんだけの厚みがあっても半分くらい、後半ほとんどワードリストみたいな感じになって大丈夫かなって、前半の半分くらいしかないんじゃないかなっていうようなものもありますし、それはね、好みですから、すすめられる先生の好みでもありますし、見やすくやりやすいっていうのでバランスのいい光村さんでいいんじゃないかなって。ただ教育出版さんで、私、ひとつ感心したのは、日常に落とし込むのがうまいなって。学校の中だけのやりとりだけでなく、一歩外に出て、お店に行った、公園に行ったとか、そういう身の回りの英語っていうものに目を向けるような作りになってて、例えば、挨拶の「hello」ひとつにしても、対面でいう「hello」と川の向こう側にいる友だちに向かっての「hello」と、図書館でバタッと友だちに会ったときの「hello」は違うんですよ。それを使い分けるような場面がちょっと出てたりしてね、考えてはるなあって、それは感心したんです。教育出版さんは、実用的な学校の中だけではない英語っていうところにすごく着目しておられるんだなあと思って。教育出版さん、ちょっと感心したなっていうところがありました。以上です。

○内田教育長 ありがとうございます。阿部委員よろしいですか。

○阿部委員 難しいですよ、この教科書ね。色んな会社の比較っていうことではなくってパラパラと全部見ましたけども、こんな難しいことを小学生でやるのかっていうのが一番率直な感想で、今、英語教育がすごい早期化されていて大学入試の英語のレベルも過去最高に難しいっていうようなことを記事とかで読んで、結局、教育を全部下に丸投げして行って、大学生になったら何も勉強しないっていうのが日本の教育なんじゃないかなというのを大変、危惧しております。英語教育を低年齢化したことによって大学

生で入ってきた学生の英語力が年々、上昇しているということを痛感するということがあまりないので、英語教育に対する文句になっておりますけど、早めに始めたらなんでもいいという考え方はちょっとやめた方がいいのじゃないかなということを感じている次第です。

○豊田委員 発音に関してですけど、私、全部の教科書を見たんですけど、発音記号を教えている記載があるところがないんですよ。今、デジタルコンテンツもありますし、発音記号は読めなくてもいいじゃないかと大方の方は考えておられると思うんですけど、自学自習で勉強するときに発音記号、読めなかったら不便なんです。辞書読んでも、辞書自体、デジタルになってるんでいいじゃないかって。だけど、例えばですね、耳だけの情報っていうのは、この単語とこの単語のこの音は同じに聞こえるけどなって思ったときに確かめられるのは、発音記号なんです。だから自分の耳だけじゃない、何かこの判断のよすがになるものが多い方が正しく理解できますから、発音記号ってすごく便利なものなんです。自分で勉強していく時に。でも発音記号の読み方を教えてる、まだ小学生ですからね、小学生だからいいんですけど、でも発音記号はどこの時点で早めに教えておくべきなんじゃないかなって、発音記号を頼りにして自分が正しい発音ができて、初めてシャドーイングとか他の勉強法もいきてくるんであって、カタカナの発音しかできないのに、シャドーイングして何の意味がありますかって、私、ちょっと思うんですよ。いいんですけど、意味はもちろんあるんですけど、効果が薄くなるんじゃないかなと思うんで、だから、今の時点ではですね、その異文化との交流したいとか、カタカナでもいい、単語でもいい、単語でも交流できたんだっていう喜びとかね、あとは日本人の感覚と違う感覚があるんだとか、そういう異文化体験みたいなのころなんですかね、この小学校英語が目指すところというのは。どうなんだろうって思うんですけどね。その辺、何を目標しているかによっても、もちろん教科書の取り組み方が変わってきますし、東京書籍さんなんかはもう、中学校英語を必ず視野に入れてやってると思うんで、すごい盛りだくさんで、すごい盛りだくさんだなと思うんですけど、今回、光村さんが選ばれたっていうのは、ゆったり楽しみながら、英語をやっついこうよっていうそういう意図もあるのかなって思って。私としては東京書籍さんを選ばれたってなったら大丈夫なんって思うんですけど、いいですよ、選んでいただいてもいいんですけど、英語に対する、今、阿部委員おっしゃったような、何を求めて、5、6年に英語を教えるのかっていうところらへんが、どうなんだろうなって思いますけど。

○内田教育長 教科化となって、書くということが入ってきましたが、これまでは、小学校の時に会話を楽しむことが中心で、中学校になって初めて文字というのが出てきたときに非常に戸惑うということがあるのでスムーズに書くということと話すということが楽しめる、そういうことが小学校の段階では必要ではあると思いますので、そういった観点から教科書を採択をしていただけたらありがたいと思います。よろしいですか、

採択の方、させていただいて。それでは、英語につきましては、光村図書に決定させていただくことに賛成の委員の皆様の挙手をお願いします。

○一同挙手

○内田教育長 それでは、挙手全員であります。よって英語につきましては、光村図書に決定させていただきます。次に道徳お願いいたします。

○小川学校教育課長補佐 道徳は、東京書籍・教育出版・光村図書・日本文教出版・光文書院・学研の6社です。東京書籍は、道徳科の学習で扱う「教材」を要として、他教科等の学習活動や家庭での活動を示唆するコラム「つながる・広がる」を組み合わせ、現代的な課題に取り組む「いじめ・命・自分・情報モラル・安心安全」の5つのユニットが全ての学年に設定されていて、特に「いじめ」の教材の初めには、いじめ問題への意識を高めるられるように扉というページがあります。教育出版は、「いじめ」「情報モラル」以外に、「生命尊重」「国際理解」「環境保全」「人権」「感謝」についても、各学年で重点テーマとして位置づけ、ユニット化して手厚く指導できるようになっています。また、目的意識を持ちやすくするために、問題や課題を解決する力を養う教材や体験しながら考える教材を目次で示しています。光村図書は、道徳の学びの土台を作るため、各学年の巻頭にこの1年間に何を学ぶのか、道徳での考え方やみんなで話し合いを上手く行うためのコツが示されています。また、考えるヒントとして「気持ちを表す言葉」や「相手の考えをよりよく理解したとき」など、「道徳でつかう言葉」の特集ページがあります。日本文教出版は、6社の中で唯一別冊で道徳ノートがついていて、題材ごとに1ページ分あり、指導者がその単元で考えてほしいこと等を決定しまとめることができる形となっています。重点課題であるいじめ・安全・情報モラルの題材がユニットとして各学期にあることに加え、児童が日常の生活にも生かせるように「心のベンチ」や「ここにも道徳」という特集ページがあります。光文書院は、いじめや情報モラルなどの今日的課題に加え、しなやかに生きる力や自己肯定感を高めることができるように、「へこんでもたちなおる」というレジリエンスの視点の教材があります。また、各学年の巻頭には、考えを整理したり、まとめたりするときの手助けとなるように、絵や図などの考え方の視覚化について掲載しています。学研は、児童の興味関心を引くことができるように、どの教材文にも、題名の下にその話のキーワードを記載しています。また、全ての題材が「いじめ防止」「情報モラル」「伝統文化」「家庭」「いのち」など15個のテーマから取り上げられていて、どのテーマについて考える題材なのかということを目次に示しています。山城地区で採択された結果は日本文教出版が選択されています。理由は、今日的課題であるいじめの問題や情報モラルの問題について学んだかということ、どのように日常生活に生かしていくかということがわかりやすいこと。道徳の学び方や何を学習してどんな力を身につけていけるかということが明確になっていること。人権的な視点から人との関わりをどう考えていくかという問いの題材が多かったこと。

心のベンチという道徳で学んだ道徳的価値を深める方法があること。また唯一、道徳ノートがあることなどが挙がっていました。以上になります。

○内田教育長 はい。続きまして、田口委員の御意見をお願いいたします。

○前山学校教育課長 田口委員から日本文教出版について御意見をいただいております。道徳ノートがついている。項目に主発問をなくし、記述の自由度がある。人権的な視点の教材から、人権学習につなげやすい。「ここにも道徳」といった日常に戻るページがあり、道徳と子どもたちの日常が続いていると感じやすくなっている。以上3点について御意見いただいております。以上です。

○内田教育長 はい、それでは御意見のほうお願いします。

○豊田委員 道徳の教科書、ノートがついてる会社が前ちょっと増えたかなと思ったら、また1社だけになったって感じで。ノートの活用ができてるのかなっていう疑問もあるんですけど。子どもがね、結構、白い道徳ノートを持って帰ってくる人が多いので。活用できてるのかなっていうちょっと疑問はありつつ、全般に言えることなんですけど、いじめを扱う教材がすごく増えてますし、ただね、それと反比例するように平和学習とか平和を題材にしたお話がだんだん減ってきてるんじゃないかなと。いじめは確かにね、重要な課題ではありますけれども、やっぱり視点を広く持つとか、いじめというのは本当に足元しか見えてないことから起こる問題だと思うので、そういう意味で、私、一所懸命探したんですけど、例えば、杉原千畝さんね、リトアニアの領事館のお話が全然載ってない、東京書籍さんとか光村さんとか全然載ってなくて平和学習ってどうなってるんだろうと私は思うんですね。文科省とかが、その社会に役に立つ人材をっていうことは分かるんですけど、社会が広く世界と考えられる子であれば良いんですけど、戦前の日本みたいに社会全体が間違っただけに行こうとしてるときに、それは違うって言える子を育てないといけないのに、なんか足元、足元に視点が集まっているような気がして、この道徳で、なんかもっと自衛隊の問題とかも問題提起として取り上げたらいいのになと思ったんですね。なんか別にきれい事ばかりっていうことではないんですけど、もっと色々な問題提起をしたらいいんじゃないかって。だから、意見集約集にもありましたよね、なんか社会の教科書だったかな、政府に忖度する必要ないって。こんな時だからこそですね、ロシアとウクライナのおかしなことをやってる時だからこそ、もっと視点を広く持って、子どもたちに考えさせる、そういう教科書があってもいいんじゃないかなと思ったんだけど、みんなよってたかっていじめ、いじめって、いやいじめって世界規模でいじめが起きてるじゃんっていう、何であれを書かずに、なんか、ちまちましたことばかり題材にあげてるんだろうと思って。私としては、もう杉原千畝さんののが載ってない教科書は何を目指してるんだろうっていうか、ちょっと残念だなんて思いました。もっと社会全体が何かおかしいなっていうときに違うって言える人を育てるべきなんじゃないのかなって。そういう視点、まあでもこれ小学校の教科書ですからね。で



もね、大きくなってから急にできないんですよ。みんな一緒にみんな一緒に良いんだよって、何か出る杭を打たれて当然だから上手にいこうみたいなそんなことを小学生のうちにやって、中学生とか高校生になって、なんかね、間違っただことは間違っただって言いましょう、実際はできないですよ、やっぱり小さいうちから、大人が置かれている状況を分かりやすく説明してあげて、同じ間違いをしないようにっていうことをやっぱりやっていくべき、それが道徳だと思うんですけど、なんかお利口さんな教科書ばかりな感じがして、どれでも杉原さんの載ってる教科書がいいんじゃないかなって、日本文教出版さんには載ってるので。それで、私は、良いと思います。

○内田教育長 ありがとうございます。

○阿部委員 道徳はすごい意見書があって、その中で、「かぼちゃのつる」が載ってる教科書を採択するなっていうのがあって。「かぼちゃのつる」がすごく敵視されていて「かぼちゃのつる」が載ってるものは採択しない方がいいという意見が載ってたんですけどね、日本文教は見事に載っていて、いや、教科書によって載ってる話が全然、違うのかなって思ったら結構、同じ話が載ってるものなんですね。それでいうとうちの次男坊は、道徳の教科書で「ハムスターの赤ちゃん」を読んで、それでハムスターをうちでも飼えということで、ついにこの夏飼ったので、飼うことになりましたので、道徳の教科書って意外に家庭に影響があるなという思い。やっぱり難しいですね。なんか教科書で教えるものでもないっていうのがやっぱり意見であって、書いてあることは価値観の押しつけをするべきではないって、書いてあるけども、逆に書いてあることに違和感を持つっていうこともすごく大切なことなので、これ、問題提起なので、「かぼちゃのつる」でそういう何か価値観を押しつけるのは良くないじゃなくて、いや、僕はこう思わないっていうことを思うことも非常に大切な事なので。うん、それでいい。なかなか一概に書いてあることに共感できるできないで選ぶべきものでもないかなと思いますけれども、自分に関してはそのSNSのあの情報モラルのことが何か取り上げられているというのは非常に今、喫緊の課題なので。もちろんSDGsみたいなことも大事な課題ですけども、非常に未成年にとっては、本当にそれで、生き死にに直結する問題になってきているので、こういうことに関して早めにどう考えるのかっていうことを学校教育の中で問題提起していくことは、非常に大事な事だと思いますので、そのことが目立って取り上げられている教科書を採択することは、非常にいいのかなというふうに思いました。

○内田教育長 ありがとうございます。よろしいですか。

○委員全員 はい。

○内田教育長 それでは、来年度の教科書、道徳につきましては、日本文教出版に決定させていただくことに賛成の委員の皆様の挙手を求めます。

○一同挙手

○内田教育長 挙手全員であります。よって道德につきましては、日本文教出版にさせていただきます。それでは、協議いただきました、議案第20号令和6年度以降使用小学校教科用図書の採択については全教科採択されましたので、これで終了いたします。ありがとうございました。

○内田教育長 それでは、令和5年度久御山町一般会計補正予算第3号について議題といたします。それでは事務局より説明を求めます。まずは学校教育課お願いします。

○梶原学校教育課長補佐 それでは、手元の資料の久御山町補正予算第3号と書かれている学校教育課の方をよろしくお願いします。まず、1ページですけれども、歳入の1ページになります。こちらの方、国庫補助金としまして、理科教育設備の補助金ということで毎年いただいている分、小学校、中学校分の交付決定がきましたので、計上しております。14万2千円の方と9万4千円となっております。続きまして、京都府の補助金でございます。府の補助金としまして、子どもの教育のための総合交付金というものが、今回創設されましたので、そちらの方にエントリーさせていただきまして、交付決定を確定させていただきました。こちらのほうですね、教育の教師力向上アドバイザーというのを今年度、つけさせていただいたんですけれども、そちらの方、人件費が出るということで、こちらの方をエントリーさせていただいております。そちらの方、9万円となっております。2ページにいきまして、同じ交付金なんですけれども、こちらの方ですね、教育相談事業の方で、そういう悩みを抱えた者、子どもたちに対しては使えるということで臨床心理士、SSWの報酬、コグトレオンラインというものを今回、購入させていただいております。こちらの方で、290万9千円となっております。その下の方ですね、中学校費に、こちらも同じ交付金なんですけど、アドバイザー報酬ということで、こちらの方は教師力向上の報償費ということで8万円あげさせていただいております。歳入につきましては以上となります。続きまして、歳出の1ページになります。国際理解教育推進事業としまして、4千円あげさせていただいております。こちらの方はうちの方で雇っておりますALTの期末手当につきまして修正がありましたので4千円の増額ということであげさせていただいております。続きまして3ページのところ、交通指導員、パトロール員配置事業ですけれども、こちらの方も4ページ見ていただきましたら、期末手当の部分で増額ということで3万1千円あげさせていただいております。続きまして5ページ、教育相談事業、内容につきましては、6ページを見ていただきまして、ソフトウェアの使用料ということで小学校のコグトレオンラインという、この、先ほど、歳入のところにごさいました交付金を活用してこれを導入したいと思っております。その費用として19万3千円あげております。続きまして7ページになります。教育委員会の事務局の運営事業ということになります。こちらの方、内容についま

しては、8ページを見ていただきまして、こちらの方は久御山町の行政評価委員会というものがあるんですけれども、そちらの方の委員報酬の改正がありましたので、その分を増額ということにつけさせていただいております。続きまして9ページ、小学校の学力向上対策事業となります。内容につきましては10ページにあります。一般報償費の教師力向上のスーパーバイザーの謝金、8万円、こちらの方を減額しております。この減額につきましては、雇っておるスーパーバイザーの方ですね、報償を渡してるんですけれども、中学校費の方に、行かれています方の分がこちらの方に計上されておりましたので、中学校と小学校へ均等にするために小学校費の方から中学校費の方に持っていくということで、マイナスしております。その下の旅費につきましては、補助で雇っております方の、雇う方によって費用弁償、交通費ですね、が違いますので、増額ということで7万2千440円ですね、あげさせていただいております。続きまして11ページ、小学校の施設維持管理事業となります。内容につきましては12ページ、こちらの方は修繕料で69万3千円あげさせていただいております。こちらの方、東角小学校の体育館のところの屋根なんですけれども、そちらの方、ちょっと雨漏りがしておまして、壁にちょっとひびが入ってきてますので、剥落とかですね、危険がありますので、修繕したいと思っておりますので、こちらの方であげております。続きまして13ページ、小学校の給食運営事業なんですけれども、内容につきましては、14ページになります。上からですね、報酬としまして会計年度一般の職員の分、給与、職員手当、共済費をあげております。こちらの方、昨年度ですね、再任用職員ということで雇用しておりました者が、一般の会計年度となりましたので、こちらの方で予算を計上するということになりましたので、こちらの方に計上させていただいております。旅費につきましても、その者の旅費となっております。負担金補助金及び交付金ということで、昨年度も実施いたしました物価高騰による給食費の方にですね、材料費の増額になっておりますので、そちらの方の補てんということで出させていただいております。各小学校の回数分プラス単価20円をかけて人数をかけさせていただいております。172万4千円の増額という形になっております。続きまして16ページ、中学校の学力向上対策事業となります。内容につきましては17ページになります。こちらの方は会計年度任用職員の一般の方の報酬につきまして差額が出ておりますので、その分を増額しております。それに伴いまして職員手当の方も増額しております。その下の報償費につきましては、先ほど小学校費でマイナスした分を中学校費に持ってきておりますので、8万円の増額となっております。続きまして、18ページになります。中学校の施設維持管理事業となります。内容につきましては、19ページになっております。需用費の修繕料としまして、71万円の増額になっております。こちらの方ですね、普通教室のですね、エアコンの方が今年度、夏、だいぶと故障しまして、先に修繕したんですけども、修繕料が足りなくなりますので、あと半年分の修繕料ということであげさせていただいております。20ページに

なります。中学校の給食運営事業になります。内容につきましては21ページになります。こちらの方ですね、小学校費の小学校の給食費であげたと同じように物価高騰により給食材料費への補てんという形になっております。今回、補正をいたしましたのは以上となります。

○内田教育長 説明は終わりました。質疑ございませんでしょうか。

○阿部委員 すいません。歳入のところであがっているコグトレオンライン使用料と臨床心理士、スクールソーシャルワーカー報酬の歳入は、以前、教育委員会でこういう補助金に申請しようと思うけれどどうかというのがありました。あれが取れたってことですか。よかった。よかったです。それは嬉しい。

○内田教育長 よろしいですか。それでは、続きまして、生涯学習応援課お願いいたします。

○星野生涯学習応援課長 はい、失礼いたします。生涯学習応援課の方、別冊子になりますが、第3号の補正予算でございます。説明をさせていただきます。歳入でございますが、1ページの方をご覧ください。まず、一番上の方が、京都府の地域日本語教育推進事業費補助金ということで、11万7千円の増額の補正予算してます。これは本町の外国人就労者等に対しまして、日本語を教えるボランティアの養成講座にかかる費用でございます、その分の、府の補助ですね、を増額させていただいています。その下の段ですが、繰越金、繰入金ですね。三郷山財産区の特別会計からの繰入金。これは雙栗神社の今年度の本殿門、それから玉垣っていうものを修繕をしております、その分の事業費の確定を受けまして、若干、増額をいたしましたので、それぞれ増額いたしまして283万9千円の増額をしております。続きまして歳出でございます。歳出の方の1ページを御覧ください。職員人件費の方で56万8千円の増額となっております。これは、2ページ目を御覧いただきまして、これはこの4月からですね、正職員1名、本課の方で増員しましたので、その分の時間外手当の増額を計上させていただいています。3ページをご覧ください。3万4千円の増額でございます。4ページの方に内訳がございますが、全世代・全員活躍まちづくりセンター運営事業の中で委員長と副委員長の報酬でございますけれども、この正副委員長との会議の事前打合せは結構、時間をとってやっていただいておりますので、その分の回数も報酬として見るということで増額をさせていただいています。次、5ページですが、23万4千円の増額、これは社会教育総務一般事務費でございますが、6ページに内訳が載っております、一番上が講師謝礼としてあがっております。これが先ほど、入りの方で説明させていただきました日本語ボランティアの養成講座の講師に払う謝礼の方の増額となっております。これで20万5千円となっております。その他謝礼の方であがっておりますが、これは全部、講師謝礼の計上ということで0となっております。一番下の旅費の方ですが、そちらの方がボランティアの養成講座に来る講師の旅費ですね、の方を計上させていただいております。2万9千円

の増額です。続きまして7ページ、旧山田家住宅保存・活用事業で5万1千円の増額でございます。8ページに内訳がございますが、こちらの方につきましても、委員長、それから委員の方々と各専門の教授が入っておりますので、その方と打合せなりが非常に長時間になるということもございまして、その打合せの報酬の日にちも見ていくということで増額とさせていただきます。9ページでございます。文化財保護事業ですが、283万9千円となっております。こちらの方が10ページに内訳がございますけれども、先ほどありました本殿門と玉垣の修繕につきまして、三郷山からのですね、補助金の繰り出しですね、これ支出の方ですが、こちらの方も事業費の増額を受けまして、増額補正を出していただいております。続きまして11ページですが、総合体育館運営事業で113万3千円の増額です。12ページが内訳になっておりますが、こちらの方、トレーニングルームの中のレッグエクステンションという機械が故障いたしまして、それを新調するために、計上させていただきます。以上、説明とさせていただきます。

○内田教育長 説明が終わりました。質疑はございませんでしょうか。

○豊田委員 すいません。

○内田教育長 はい、どうぞ。

○豊田委員 予算と直接関係ないですけど、あの日本語ボランティアの養成講座はいつから。まだ決まってない？

○星野生涯学習応援課長 あのね、この講座自体は、かなり前からやってまして、町内のボランティアの方を中心にやっていただいている。府の補助メニューといたしますか、メニューを使って、講師として来ていただけるんですけども、ちょっとその国際センターの方針が変わりまして、ちょっとその町からの持ち出しが必要となってきた。

○豊田委員 そうなんですね。わかりました。

○内田教育長 それでは説明が終わりました。議案第21号を採決いたします。御異議はございませんか。よろしいですか。

○委員全員 はい。

○内田教育長 ないようですので、議案第21号については可決いたしました。続きまして、議案第22号久御山町子どもの読書活動推進計画策定委員会設置要綱一部改正についてを議題といたします。それでは事務局より説明をお願いいたします。

○星野生涯学習応援課長 はい、失礼いたします。久御山町子どもの読書活動推進計画策定委員会設置要綱一部を改正する要綱につきまして、この計画につきましては、来年度までが計画期間となっております。来年度中に更新、次期計画を定める必要がございます。それを受けまして、その委員会を設置をいたしまして、計画の方を作っていくという作業をしていく必要があるんですけども、そのメンバーにつきまして、現行の組織、それから課名とか、いったもののちょっと見直しがございましたので、必要がございますので、今回要綱の改正をいただくということでございます。新旧対照表を見ていただ

くと分かり易いと思いますので、参考資料2枚目の裏にですね、つけさせていただいてますけれども、まずは社会教育課が生涯学習応援課に変わっております。それから学校教育課の方がこれまでは1名となっていました、2名をちょっとお願いしようと思っております。これは、これまでは課長補佐であって指導主事の先生に1人入っていたんですけども、図書館司書の方を各学校に配置させていただいた関係で、担当として谷口指導主事にも当たっていただいておりますので、計画策定には入っていただきたいなと思って増やさせていただきました。それからですね、こども園の方が2人から1人になっておりますけれども、こちらの方が幼稚園、保育所で1人、1人となっていたのが、こども園ということになりましたので、対応して1人ということで、1人とさせていただいております。要綱の改正の説明とさせていただきます。

○内田教育長 説明が終わりました。質疑の方はどうでしょうか。よろしいですか。

○阿部委員 いや、こども園が保育園と幼稚園から1人ずつが、こども園になったので、一体化したので1人になるという理屈はわかりますけれども、できれば、できるだけこども園とか未就学児に携わっている先生の意見は組み入れるべきだとは思いますが、吸い上げれますでしょうか？

○星野生涯学習応援課長 そうですね。これは策定委員ということでございますので、計画を進めていく中では、もちろん職員であったりとか子どもたちへの保護者たちのアンケートとかいうのを行っていきますので、その辺りは十分、聞き取りをやっていきながら進めていきたいと思っておりますので、大丈夫かなと思います。

○内田教育長 もうひとつ、付け加えをするとすれば、学校の方から来られる、図書館司書、配置していただいたその方が、こども園の方にも行っておりますので、そこからの意見の集約も吸い上げもできると思います。それでは、議案第22号を採決いたします。御異議はございませんか。よろしゅうございますか。

○委員全員 はい。

○内田教育長 ないようですので、議案第22号については可決いたしました。本日の議案は以上でございます。よって本日の定例会は閉会いたします。

午前11時30分 終了